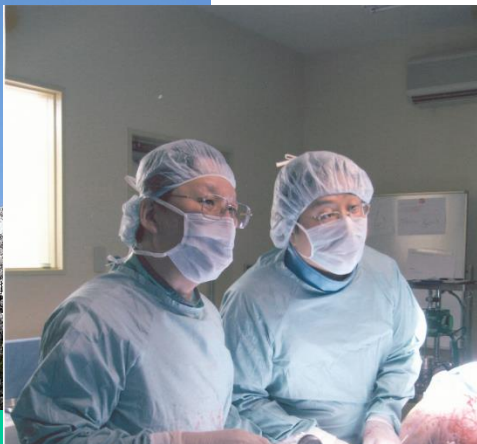


Kanazawa Vascular Access Intervention Live Demonstration Kanazawa-VALID 2014 症例集



主催：金沢バスキュラーアクセスインターベンション研究会

May 24. 2014

Case 1: 68歳、女性

Operator: Dr. Horita

Angio-guide VAIVT

---慢性糸球体腎炎---金沢のA総合病院から紹介

Vascular access : 右前腕の自己動静脈シャント

Symptom : 返血圧の上昇、右上肢腫脹、右胸部静脈怒張

Target Lesion : 右鎖骨下静脈中枢側の血栓を伴う新規病変

History

2013年8月 右鎖骨下静脈狭窄にVAIVT。

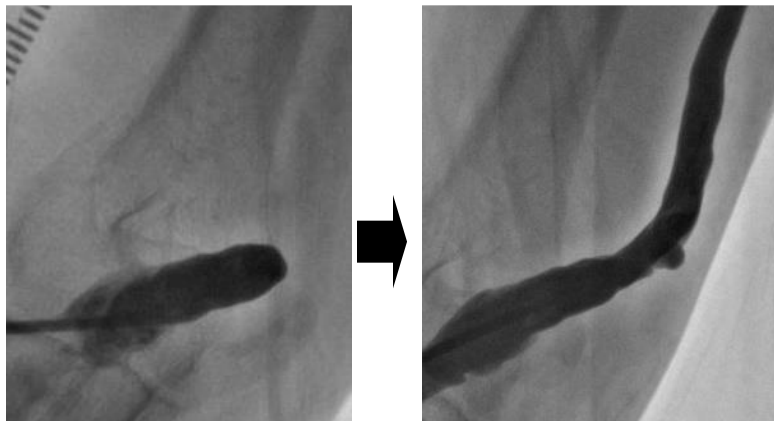
2014年3月 右上肢シャント肢の腫脹、返血圧の上昇、皮膚静脈怒張。

2014年4月 シャント評価目的に当院紹介。右尺側皮静脈の慢性完全閉塞(CTO)および右鎖骨下静脈の多量のボール状血栓を伴う高度狭窄と診断。ワーファリン投与開始。

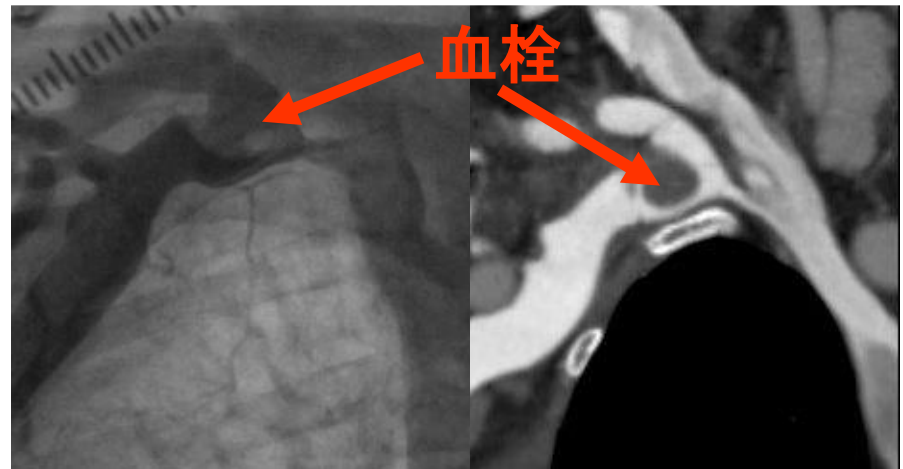
2014年4月16日右尺側皮静脈CTOはVAIVTにて再開通。

2014年5月8日のエコーにて右鎖骨下血栓の縮小を確認。

今回、右鎖骨下静脈狭窄のVAIVTとなる。



2014年4月初回VAIVT



Case 2: 85歳、男性

Operator: Dr. Kakuchi

Angio-guide VAIVT

---腎硬化症---金沢のS金沢病院から紹介

Vascular access : 左前腕の人工血管シャント

Symptom : 返血圧の上昇

Target Lesion : 左人工血管静脈吻合部再狭窄、左Cephalic arch狭窄

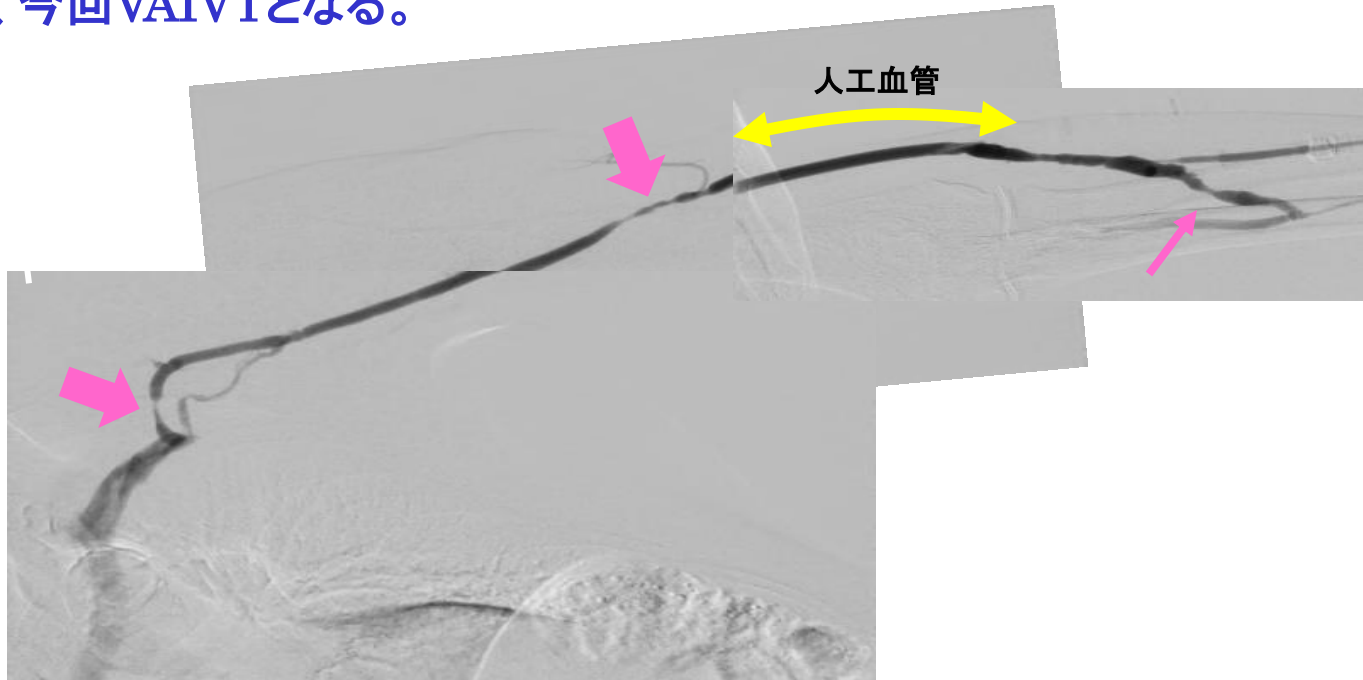
History

2010年3月 維持透析導入。

2010年～2014年シャント狭窄にて3回/年程度のVAIVT施行。

2014年2月15日シャント閉塞にて2月27日グラフト留置するも、翌日に再閉塞にてVAIVT施行(保険償還せず)。

2014年5月の造影にて、左人工血管静脈吻合部再狭窄およびCephalic arch狭窄を認め、今回VAIVTとなる。



Case 3: 56歳、男性

Operator: Dr. Haruguchi Echo-guide VAIVT

---腎硬化症---金沢のP透析クリニックから紹介

Vascular access : 右前腕自己血管シャント

Symptom : 脱血障害

Target Lesion : 右前腕静脈の多発性狭窄病変

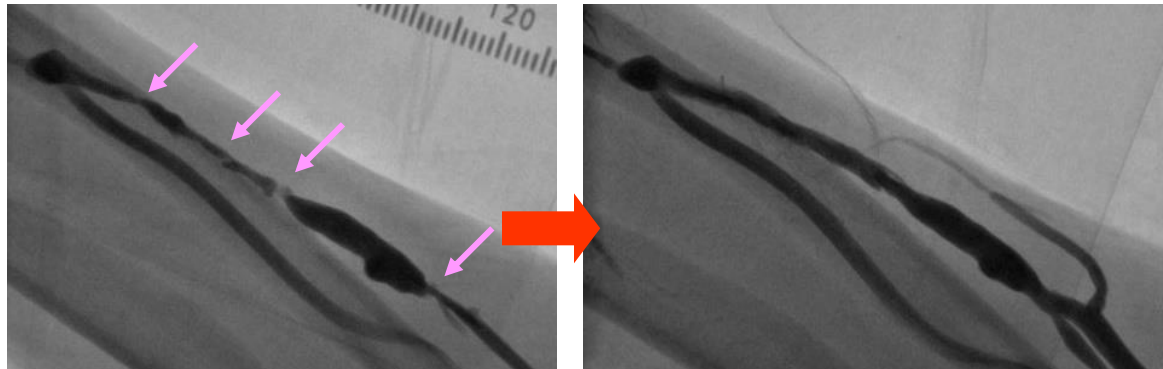
History

2014年1月に右前腕シャントの脱血不良にて当院に紹介。

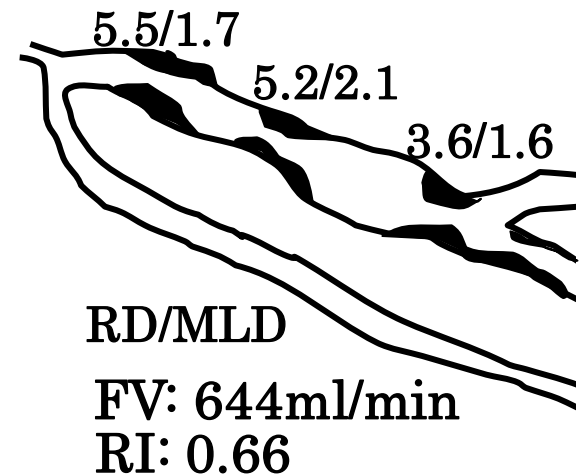
2014年1月21日シャント造影にて、右前腕部シャント静脈の多発性狭窄にて、4mm-AngioSculpt PTA balloon 14気圧拡張。高度recoilおよび拡張不全が残存し、5mm-COQUESTにて最大22気圧拡張。

2014年5月15日脱血不良再出現し、血管エコーにて多発狭窄を認めた。

今回、echo-guide VAIVT目的に入院。



2014年1月 VAIVT



5月15日血管エコー

Case 4: 50歳、女性

Operator: Dr. Tsuboi

Angio-guide VAIVT

---慢性糸球体腎炎---富山市のH病院から紹介

Vascular access : 左上腕部撓側皮静脈の人工血管シャント

Symptom : 返血圧上昇

Target Lesion : 左上腕部人工血管内の繰り返す再狭窄病変
および中枢側人工血管静脈吻合部SMART stentの再狭窄(?)

History : 1980年11月維持透析に導入。

2007年3月天理よろず相談所病院で左上腕人工血管シャント再建。

2007年4月人工血管静脈吻合部狭窄にSMART stent留置。その後、富山S病院で繰り返すVAIVT。

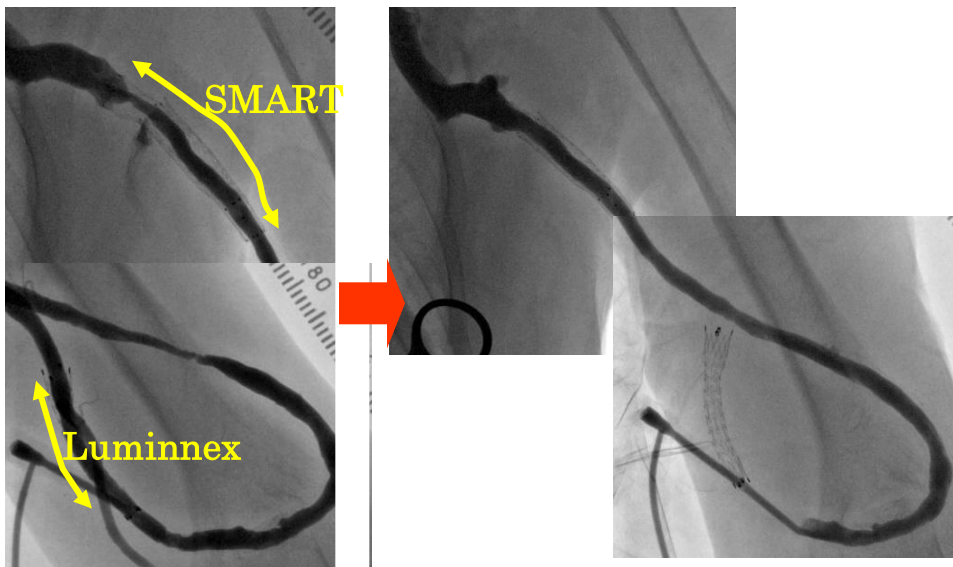
2012年6月・9月に天野記念クリニックにてVAIVT。

2012年12月・2013年3月に人工血管およびSMART stent再狭窄で当院VAIVT(AngioSculpt-6mm)。

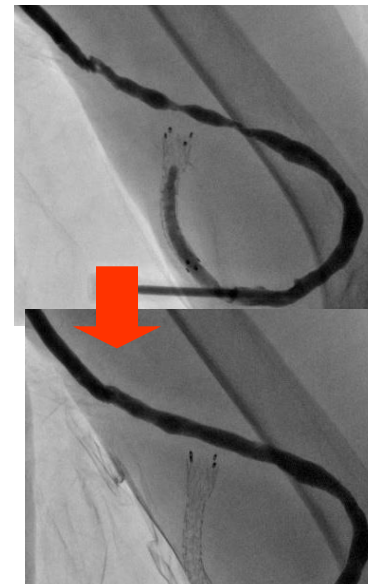
2013年7月人工血管多発再狭窄でCutting balloon(6mm)。10月再狭窄でAngioSculptで再拡張。

2014年2月人工血管内再狭窄で、YOROI(6mm)で再拡張。

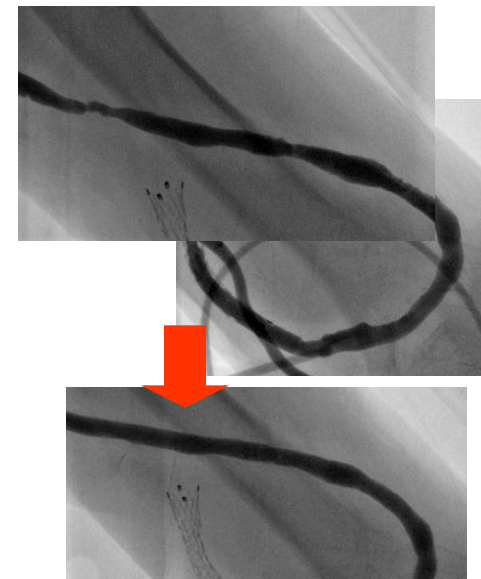
2014年5月エコーにて人工血管内およびSMART stent内に再狭窄疑いにて今回VAIVT目的に入院。



2012年12月
(ASB)



2013年7月
(PCB)



2014年2月
(YOROI)

Case 5: 63歳、男性 Operator: Dr. Ikeda Angio-guide VAIVT

---糖尿病性腎症---金沢のS金沢病院から紹介

Vascular access : 右前腕自己血管シャント

Symptom : 静脈圧上昇

Target Lesion : 右前腕自己血管シャントの肘部分尺側皮静脈の再狭窄

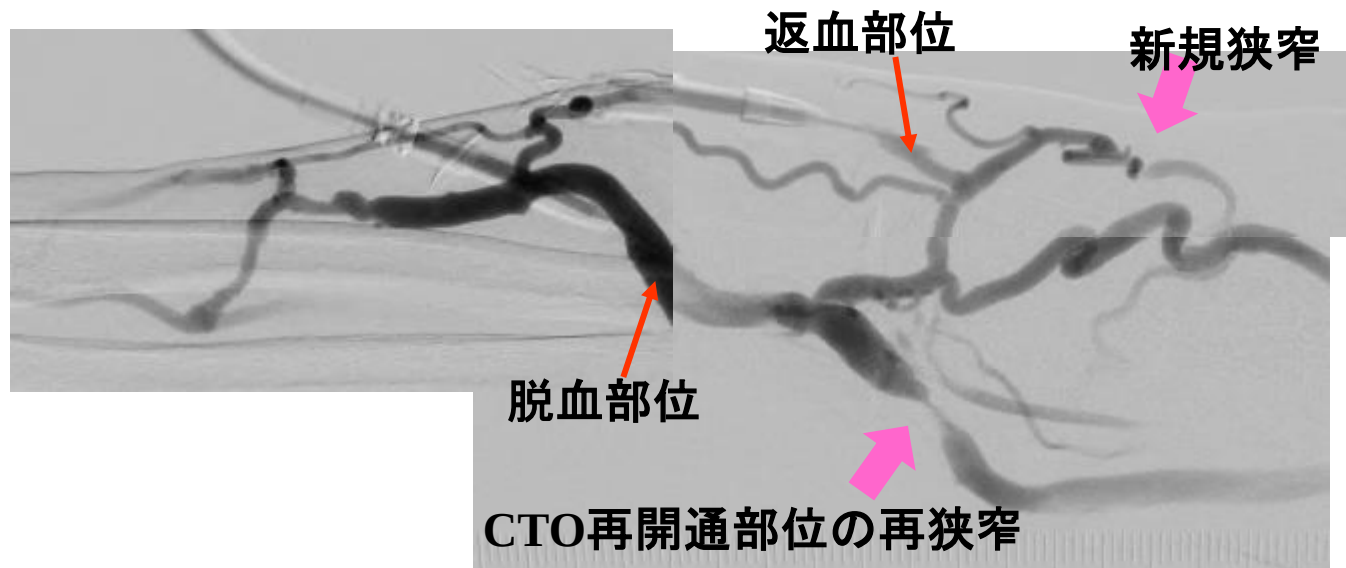
History : 高血圧、糖尿病、陳旧性心筋梗塞症例。1994年から2型糖尿病。

2013年5月に維持透析導入。

2013年10月穿刺困難にて血管エコー施行。尺側皮静脈の慢性完全閉塞(CTO)を認め、VAIVTにて再疎通。

(以前は閉塞部で返血していた。現在は別の血管で返血を行っているが、静脈圧の上昇を認めている。)

2014年5月のシャント造影にて、CTO再開通部位の高度再狭窄を認め、VAIVTとなった。



Case 6: 63歳、男性 Operator: Dr. Wakabayashi Echo-guide VAIVT

---腎硬化症---S金沢病院から紹介

Vascular access : 右前腕自己血管シャント

Symptom : 脱血障害

Target Lesion : 右前腕自己血管シャントの瘤形成前後の高度狭窄

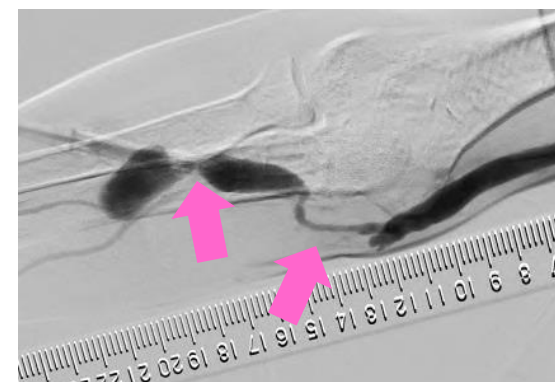
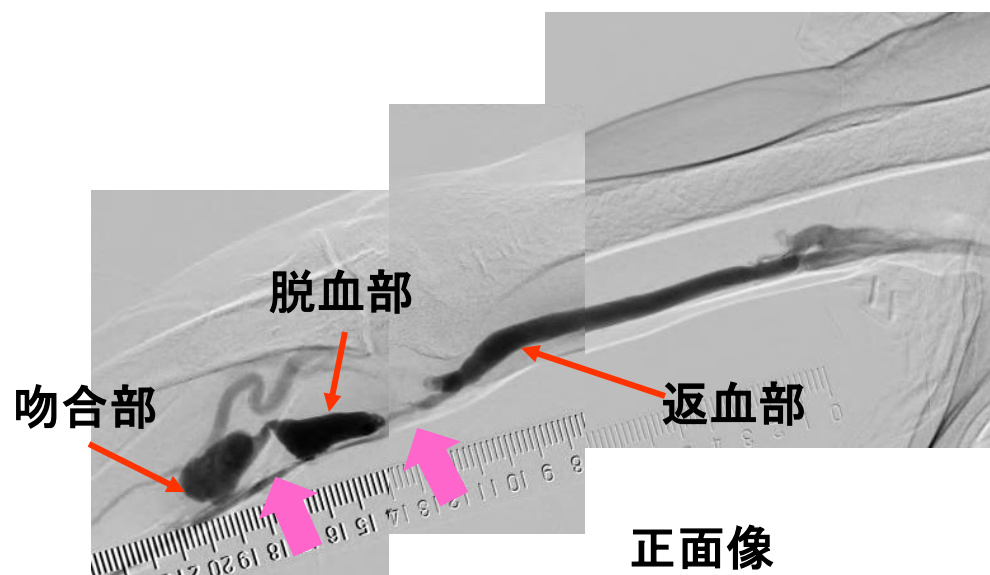
History : 高血圧、右被殻出血後、左上下肢麻痺。

2001年に左前腕シャントにて、維持透析導入。

2011年3月左前腕シャント閉塞し、右前腕にシャント再建。

2013年12月にシャント前腕部狭窄にVAIVT施行。

2014年5月脱血障害にてシャント造影。前腕部シャントの瘤形成前後での屈曲した高度再狭窄を認め、今回echo-guide VAIVT予定となった。



Case 7: 49 歳、男性

Operator: Dr Hirase

Angio-guide VAIVT

---糖尿病性腎症---小松S病院より紹介

Vascular access : 右前腕自己血管シャント

Symptom : 返血圧の上昇

Target Lesion : 右肘部尺側皮静脈の慢性完全閉塞(CTO)
および前腕シャント狭窄

History

糖尿病性腎症から1995年に透析導入。

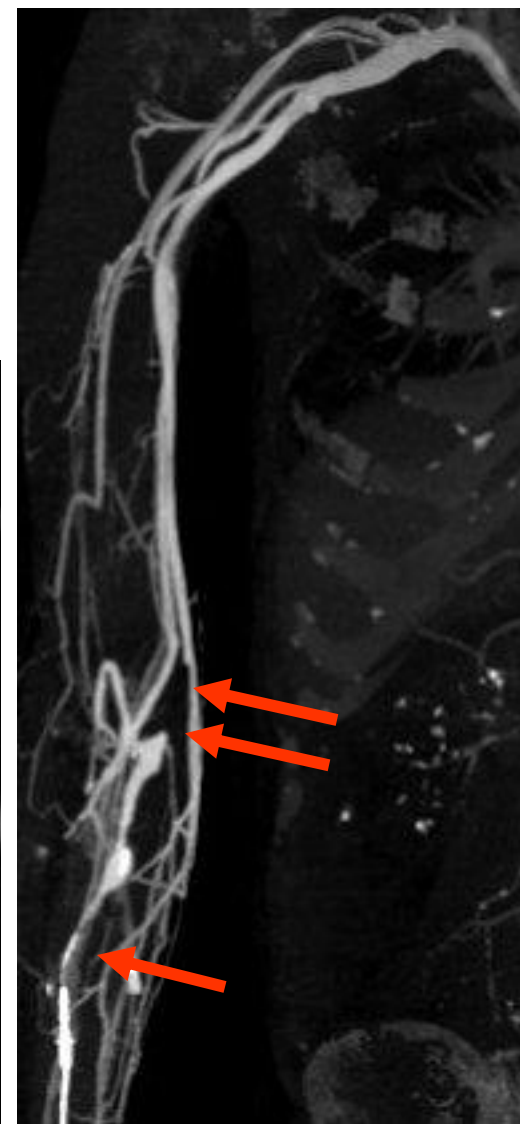
2001年にシャント再建。

2014年初旬頃から静脈圧上昇を認め、

4月当院にシャント評価目的に紹介。

シャント造影MDCTにて、**右肘部尺側皮静脈の慢性完全閉塞(CTO)および前腕部シャント狭窄と診断された。**

今回、この病変にに対するVAIVT。



Case 8: 60歳、男性-

Operator: Dr Horita

Angio-guide VAIVT

--慢性糸球体腎炎--白山市I医院より紹介

Vascular access : 左上腕部人工血管シャント

Symptom : 返血圧の上昇

Target Lesion : 左上腕部尺側皮静脈の短期間に繰り返す再狭窄病変

History : 昭和48年に維持透析に導入。2005年右腎癌で手術、右上腕に人工血管シャント再建するもシャント狭窄の繰り返しのためVAIVTおよびstent留置。

2010年シャント閉塞で、左上腕に人工血管シャント再建。

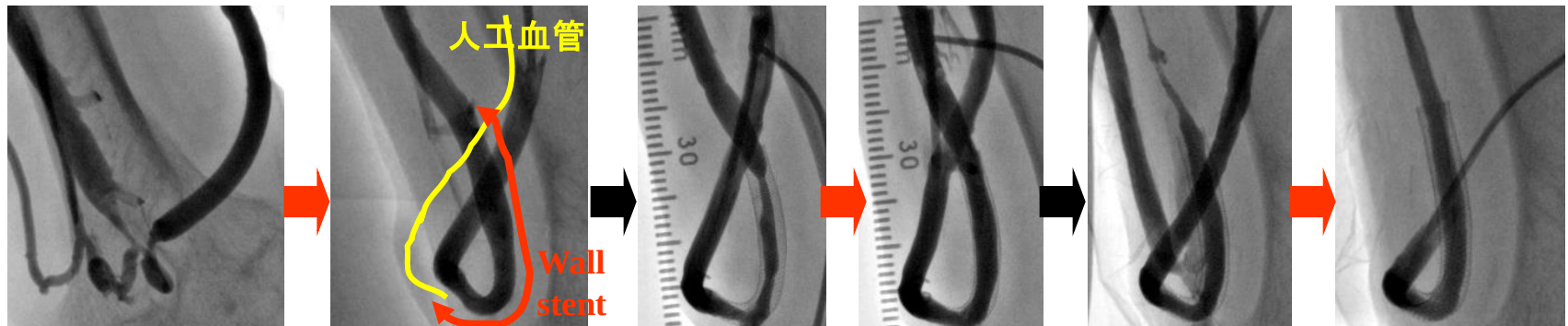
2012年8月返血圧の上昇・左上腕腫脹にて当院に紹介となった。人工血管尺側静脈吻合部の複雑形態の高度狭窄を認め5mm-balloon拡張を行ったが、急性解離・血流障害を認めWall stent(6x60mm)留置。以後stent内およびstent edge狭窄で6回のVAIVT施行(AngioSculpt, High pressure-balloon, 低圧拡張balloonいずれも再狭窄)。

2014年2月K大学病院整形外科にて腰椎手術を腹臥位にて施行の際に、シャント血管圧迫にて術直後にstent中枢側の尺側皮静脈の急性閉塞でballooningが施行された。

2014年2月27日同部位の高度再狭窄にて当院でVAIVT。以後4週間後、2週間後の短期の再狭窄にてVAIVT(保険償還せず)。

2014年5月8日エコーにて75%再狭窄の指摘。今回、再度VAIVT目的にて入院。

➡ 短期間に繰り返す病変であり、追加でのstent留置が必要か？



2012年8月

2012年12月

2014年2月